

令和元年6月19日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02100

研究課題名（和文）20世紀序盤の本邦における和洋の共鳴 - 楽器の響きから考えるピアノ文化

研究課題名（英文）Piano in Japan at the first decades of the 20th century

研究代表者

小岩 信治 (Koiwa, Shinji)

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：90387522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：大正期までに使われ始め、現在各地の大学・博物館等に所蔵されている楽器の実物調査を11件実施した（実物調査=標本調査）。そして、これら実物調査を行ったものを含め、過去に存在した楽器の網羅的な調査を行い（悉皆調査）、304点に関する情報を集積した。この300点余りの情報のなかには、現存しているものだけでなく、実物が失われ、文書資料によって過去の存在が確認できたものも含まれる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

明治・大正期、ヨーロッパに由来する音楽が既存の音楽文化とせめぎ合いながら定着する過程において、ピアノは新しい音楽文化を体現する象徴的な楽器の1つであった。プロの音楽家の育成にも、学校での音楽教育でもピアノが活用された。しかしその響きが実際にどのようなものであったのかが問われ、音楽史記述に活かされたことはなかった。こうした状況に鑑みて、当時どのようなピアノが輸入され、また製造され、そして使用に供されていたのかを明らかにする基礎研究が必要である。

研究成果の概要（英文）：The aim of our proceeding research is to demonstrate what kind of piano was used and how it sounded in Japan in the first decades of the twentieth century. Not only the pianos that still exist, but also past collections of pianos are under investigation.

研究分野：音楽学

キーワード：ピアノ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

明治・大正期において、ヨーロッパに由来する音楽が既存の音楽文化とせめぎ合いながら定着する過程において、ピアノは新しい音楽文化を体現する象徴的な楽器の1つであった。プロの音楽家の育成にも、学校での音楽教育でもピアノが活用された。しかしその響きが実際にどのようなものであったのかが問われ、音楽史記述に活かされたことはなかった。

### 2. 研究の目的

こうした状況に鑑みて、当時どのようなピアノが輸入され、また製造され、そして使用に供されていたのかを明らかにする基礎研究が必要である。

### 3. 研究の方法

本研究においては2つの方向で20世紀序盤の本邦におけるピアノの実情を探求した。第一に、当時から現在に到るまで存在し続けている楽器の実物調査である。予備調査の段階で該当するピアノの存在が確認されていた東京藝術大学(旧制:東京音楽学校)などにおいて、当時使われかつ現存する楽器がどのような特性を持つかについて、ピアノ製造について知悉する専門家による調査を行った。第二に、そうした実物調査(標本調査)が可能ではないものの現存している楽器と、当時は存在したものの今日実物が確認できない楽器についての情報収集である(悉皆調査)。これについては予備調査においてピアノ関係の購入記録が確認されていた東京音楽学校の会計関係資料など過去の文書調査のほか、当時から現在に至るまでの報道記事の検索など、さまざまな文書資料に基づいて調査を行った。

### 4. 研究成果

#### (1)実物調査(標本調査)

現存する楽器のうち以下のものについて調査を実施した。標本としては、輸入点数が多く従って現存数が多いドイツのもののみならず、輸入点数としては少なかったとみられるフランスやロシアの楽器を積極的に選定し、当時の多様なピアノ文化を描くための資料となるよう配慮した。各楽器について基本的な仕様のほか打鍵機構、調弦データ、ハンマーに関するデータ、現況の写真画像がとりまとめられている。また舶来品に対抗すべく日本国内で製造された楽器については、内部の精査によってアクション(打鍵機構)が外国製であることが判明するなど「純国産」の度合いも明らかになっている。

Bechstein グランドピアノ(東京・如水会館)

Becker グランドピアノ(安城市歴史博物館、旧安城高等女学校所蔵)

Chickering スクエアピアノ(東京音楽学校-東京藝術大学美術館)

Doering アップライトピアノ(東京:滝乃川学園)

Erard グランドピアノ(東京音楽学校-東京藝術大学音楽学部)

Ibach グランドピアノ(東京音楽学校-東京藝術大学美術館)

Kohler & Chase アップライト(熱海・中山晋平記念館)

Steinway アップライト(慶應義塾横浜初等部、旧信時潔所蔵)

Steinway スクエアピアノ(東京音楽学校-東京藝術大学美術館)

周 アップライトピアノ(北海道教育大学旭川校)

ヤマハ アップライトピアノ(浜松市博物館)

#### (2)悉皆調査

東京藝術大学が保管する会計資料等により、大正15年までに内外の167点のピアノ(グランド、アップライト)を購入した可能性があることが明らかになった。東京音楽学校に納品されたピアノは当初はアメリカ、フランスのものが一定の割合を占めていたが、大正期に入ってからドイツ製の楽器が圧倒的多数となる。

大正期までに本邦に存在した可能性のあるピアノ304点についての情報を収集した(2)に挙げた167点を含む)。現在、次のURLでその概要を公開している。

[https://drive.google.com/drive/folders/1GzxrHGF3089JQfG5k09E81vk2EE7pMz\\_](https://drive.google.com/drive/folders/1GzxrHGF3089JQfG5k09E81vk2EE7pMz_)

なお後述のとおりこのプロジェクトは継続的な発展が見込まれており、「明治・大正期の本邦のピアノ」で検索できるウェブページに移転させる可能性がある。

(3)当研究プロジェクトに関連する学会発表を個別に行ったほか、2019年3月13日に一橋大学にて、シンポジウム「歴史的ピアノと音楽文化 - 第1回シヨパン国際ピリオド楽器コンクールをふりかえる」を開催した。2018年に開始されたシヨパン国際ピリオド楽器コンクール(ワルシャワ)は、歴史的ピアノに関する探求が世界的に拡大していることを証する催しであり、このシンポジウムによって本研究が世界的な研究の潮流と接続していることを明らかにした。

なお当研究は科研費プロジェクト「20世紀序盤の東アジアにおける東洋・西洋の共鳴:楽器の響きから考えるピアノ文化」(基盤研究(B)18H00623)として対象地域を拡大して発展的に継続させる。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

井上さつき 「戦後の器楽教育と鍵盤楽器産業」『愛知県立芸術大学紀要』第 48 巻(2019), 141-153 ページ(査読無)  
井上さつき 「米国領事報告から見る近代日本のピアノ製造」『愛知県立芸術大学紀要』第 47 巻(2018), 123-134 ページ(査読無)  
井上さつき 「山葉寅楠と鈴木政吉 明治期の博覧会とのかかわりを中心に」『ミクス  
トミュージズ(愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要)』第 13 巻(2018), 43-62  
ページ(査読無)

〔学会発表〕(計 3 件)

INOUE Satsuki “S. Moutrie & Company in Shanghai and the Development of the Piano  
Production in Modern Japan.” 世界の中国学に関するシンポジウム 2018 年, 上海社会  
科学院.  
INOUE Satsuki “The Development of Yamaha's First Electric Organ”, EMS18  
(Electroacoustic Music Studies Network) 2018 年, フィレンツェ, Villa Finaly.  
KOIWA Shinji “Piano in Japan during the early 20th century”, International  
Musicological Society, 20th Quinquennial Congress in Tokyo, 2017 年, 東京藝術大学.

〔その他〕(計 1 件)

ホームページ等

[https://drive.google.com/drive/folders/1GzxrHGF3089JQfG5k09E81vk2EE7pMz\\_](https://drive.google.com/drive/folders/1GzxrHGF3089JQfG5k09E81vk2EE7pMz_)  
(今後「明治・大正期の本邦のピアノ」で検索できるウェブページに移転させる可能性あり。)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 大角 欣矢  
ローマ字氏名: OSUMI Kinya  
所属研究機関名: 東京藝術大学  
部局名: 音楽学部  
職名: 教授  
研究者番号(8桁): 90233113

研究分担者氏名: 奥中 康人  
ローマ字氏名: OKUNAKA Yasuto  
所属研究機関名: 静岡文化芸術大学  
部局名: 文化政策学部  
職名: 教授  
研究者番号(8桁): 10448722

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名: 薩摩 雅登  
ローマ字氏名: SATSUMA Masato  
所属研究機関名: 東京藝術大学  
部局名: 大学美術館  
職名: 教授

研究協力者氏名: 松村 智郁子  
ローマ字氏名: MATSUMURA Chikako  
所属研究機関名: 東京藝術大学  
部局名: 音楽学部  
職名: 講師

研究協力者氏名: 大塚 直哉  
ローマ字氏名: OTSUKA Naoya  
所属研究機関名: 東京藝術大学  
部局名: 音楽学部  
職名: 副学部長・教授

研究協力者氏名: 小倉 貴久子  
ローマ字氏名: OGURA Kikuko  
所属研究機関名: 東京藝術大学  
部局名: 音楽学部  
職名: 講師

研究協力者氏名：平野 昭  
ローマ字氏名：HIRANO Akira  
所属研究機関名：静岡文化芸術大学  
部局名：文化政策学部  
職名：名誉教授

研究協力者氏名：土田 牧子  
ローマ字氏名：TSUCHIDA Makiko  
所属研究機関名：共立女子大学  
部局名：文芸学部  
職名：准教授

研究協力者氏名：井上 さつき  
ローマ字氏名：INOUE Satsuki  
所属研究機関名：愛知県立芸術大学  
部局名：音楽学部  
職名：教授

研究協力者氏名：齊藤 紀子  
ローマ字氏名：SAITO Noriko  
所属研究機関名：お茶の水女子大学  
部局名：グローバルリーダーシップ研究所  
職名：みがかずば研究員

研究協力者氏名：太田垣 至  
ローマ字氏名：OTAGAKI Itaru  
所属研究機関名：（歴史的鍵盤楽器製作家）

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。